



大阪+知的障害+地域+おもしろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3659 号 2017.5.19 発行

### 社会多様化、広がる役割 民生委員制度、創設から100年

中日新聞 2017年5月19日



前川さん(右)の自宅を訪れる民生委員の松永さん。緊急時のために自分の情報を保管しておく専用キットを持参した=亀山市天神で

地域住民の生活に関するさまざまな問題に対応する民生委員制度は今年12日で創設から100年を迎えた。児童委員も兼ね、社会の多様化で取り扱う範囲は広がる一方、高齢化やなり手不足の課題を抱える。地域と関係機関のつなぎ役、身近な相談役として地域福祉の最

前線を担う民生委員・児童委員の活動を追った。

「免許の返納、一緒に行こうか」。亀山市天神の前川智子さん(83)宅。民生委員・児童委員の松永里子さん(72)が訪れ、語りかけた。前川さんは三年前に夫を亡くし一人暮らし。最近、転んでけがをしたのを潮時と考え、運転免許証の返納を決断した。

松永さんは返納と引き換えのバス運賃割引サービスがあることを伝えたが、きちんと手続きしないとサービスは受けられない。「返納する前に詳しい所で相談した方がいいよ。早めに行こう」と促した。

これまで気軽に訪ねていた近所の友人が亡くなり、出歩かなくなるという不安が募る。松永さんは「二十年もしとると、勘所がつかめる。気になるからね」。顔を出しては地域の行事に誘う。前川さんも「誰にでも話せないことが相談できる。本当に助かる」と頼りにする。

各地で民生委員・児童委員が複雑な事例に直面する例は増えた。

亀山市民生委員児童委員協議会連合会の佐野満枝会長(67)は、同居の息子が仕事でいない時間帯に亡くなった高齢者の例を挙げ「核家族化や生活スタイルの多様化で地域も家庭事情も複雑になり、以前なら支援対象にならなかった人が網目からこぼれてしまう。同じようなことは今後も増えるだろう」と話す。

#### ◆県内も担い手不足、高齢化

民生委員・児童委員は、市町村ごとに世帯数などから割り出した定数が定められている。県内二十九市町の定数は計四千百九十七人。各市町の推薦会などを通じ、選任される。

昨年十二月に一斉改選があり、四月一日現在の就任数は四千八十二人。充足率は全国平均並みの97・3%だ。県社会福祉協議会によると津市や四日市市、志摩市などで担い手が見つからず、定数を割り込む状況という。

委員の高齢化も課題となっている。県社協によると、昼間の活動が多いため定年後に委員になる人が多いが、定年の年齢が上がり、初任の委員が高齢化している。技能を身につけても短期間で退任することになり、経験豊富な委員が育ちにくい問題も抱える。

県民生委員児童委員協議会の速水正美会長(69)は「原則七十五歳に達すると再任されないが、超えてもお願いする場合は珍しくない」と現状を語る。

厚生労働省がまとめた二〇一五年度の福祉行政報告例によると、県内の委員は家庭訪問や会議出席などに平均年間約百二十八日を費やし、三日に一回を超えるペースで活動している。

速水会長によると、以前より活動内容が増えて、特に未経験者には負担が大きいイメージもあり、敬遠される要因になっているという。「本来は地域と行政のつなぎ役。自分のペースで活動計画を立ててやるだけでも地域貢献になると思う」と話し、若い世代を含め多くの人の参加の必要性を訴える。（松崎晃子）

**<民生委員>** 1948（昭和23）年施行の民生委員法に基づく非常勤の地方公務員。任期は3年。自ら住む地域で、高齢者や障害者などの見守りや安否確認、虐待防止などに努め関係機関との仲介役を担う。全国に約23万人おり、報酬はない。都道府県の審議会を経て知事から推薦され厚生労働大臣の委嘱を受ける。生活困窮者を救うためドイツの制度を参考に岡山県で17（大正6）年に創設された「済世（さいせい）顧問制度」が源流。「方面委員制度」として10年ほどで全国に広まり、戦後に民生委員と改称された。47年に児童福祉法が制定され子どもに関する案件を担う児童委員も兼ねる。別に、子どもや子育ての支援に特化した「主任児童委員」もいる。

## 企業の就労支援やダイバーシティー活発化 障害者との交流で新たな発見



Sankeibiz 2017年5月19日  
丹青社が4月末に実施したダイバーシティーセミナー＝東京都港区

2018年度からの精神障害者の雇用義務化と、それに伴い想定される法定雇用率の引き上げを見越して、企業の間で障害者就労の支援や、多様な人材を活用するダイバーシティーを訴求する動きが活発だ。

全国約60カ所で障害者向けの就労支援事業所を展開する、ソーシャルベンチャーの代表格がLITALICO（リタリコ）。就労に必要な知識や

能力の向上を図る訓練のほか、面接などの指導も行う。また、採用側と障害者との相互理解を深めるためには交流の場が不可欠という考えから、各地での合同企業説明会の開催に力を入れる。この結果、16年度の就労者数は940人と過去最多を記録した。

4月下旬には品川シーズンテラス（東京都港区）で、「ユニバーサルキャンプTOKYO 2017」が開催された。同ビルに本社を構える丹青社が音頭を取って、キャノンマーケティングジャパンや森永乳業など地元を拠点とする企業と連携して企画した。年齢や障害の有無にかかわらず、一緒に生き生きと暮らせる社会を実現するのが目的だ。

2日間にわたって行われたイベントでは、パラリンピックメダリストのトークショーやブラインドサッカーなどの体験プログラムを用意した。セミナーでは、多様な特性のある講師から仕事や日常の不便さや知恵・工夫を聴き、参加者はダイバーシティーの理解を深めていった。

こうした中、企業の全般的な動きを見渡すと、まだまだ遅れている。野村総合研究所が昨年、特定子会社を持たず自社で障害者を雇用する上場企業を対象に実施した調査によると、法定雇用率（2%）より高い2.2%以上の雇用率を達成している企業は15%に満たなかった。また、採用している場合でも「仕事が続かないケースが目立つ」（リタリコ）といった問題が大きなリスクとして浮上しつつある。

障害者支援やダイバーシティーの推進は単なる社会貢献活動ではない。多くの障害者と接点を持てばそれだけ、どういった製品・サービスが求められているかが認識できる機会に恵まれ、イノベーションを生み出す可能性があり経済効果も大きいからだ。各社の取り

組みをいかに横展開できるかが、今後の重点課題となる。



### <ニュースアイ>障害者雇用「1000人」達成間近

読売新聞 2017年05月19日  
就職サポートを進める市障害者千人雇用センター（総社市中央で）

◇総社市取り組み  
着実に成果

総社市が進めてきた「障害者千人雇用」の実績が、4月で991人となり、近く目標を達成する。取り組みを始めた2011年度から倍増し、一般的に就労年齢とされる18～64歳の市内の障害者数に迫る。活動の核となっているのが12年に設立された「市障害者千人雇用センター」。地元企業に精通した職員による仲介や職場の開拓が功を奏している。（檜崎基弘）



◇独自に仲介センター 「街の雰囲気変わった」

市外の就労支援施設に通っていた同市久代の小西竜二さん（33）は、同年9月、センターの仲介で「国民宿舎サンロード吉備路」に就職した。週5日、清掃業務に携わる。真面目な姿を見て声をかける市民も多い。小西さんは『『きれいだね』と言ってもらえることがうれしい。自分の仕事に責任を感じます』と語る。

同宿舎で働く障害者は11年度まで0人だった。募集は少なく、続けるためのサポートもなかったという。現在は小西さんを含め2人を雇用。センターが定期的に双方の相談に応じる。総支配人の荒井泰博さん（54）は「一緒に汗を流せば仲間意識が芽生える。特別扱いはしていないし、頼りにしている」と笑顔をみせる。

センター設立のきっかけは、市の活性化につながると期待していた県立支援学校の誘致に失敗したことだった。学校が隣の倉敷市に置かれることになったことを受け、卒業者が働く場所を確保する方針に転換。12年4月に開設した。

障害者の雇用支援は通常、ハローワークや市町村をまたぐ障害者就業・生活支援センターが担当するため、市町村単体では異例だ。運営は社会福祉協議会が担い、職員は5人。週1回訪れるハローワークの職員と情報交換し、人材と職場のマッチングを検討する。

市の人口は約6万8000人。目標の1000人は、当時の18～64歳の障害者が約1200人だったことから設定した。支援の対象は市民だけでなく、市内で働く障害者も含む。よりよい条件を目指しており、民間企業や市役所での一般就労は572人になる。

市は運営費として年間約1500万円を支出するが、担当者は「外に出る障害者が増え、街の雰囲気が変わった。障害者への理解が深まることは、未来への先行投資でもある」と力を込め、社会保障費の削減も期待する。

全国的に障害者の社会進出は改善傾向だが、課題は多い。厚生労働省の発表では、民間で働く障害者（昨年6月）は47万4374人で前年比4・7%増。13年連続で過去最多を更新したものの、全体に占める割合は1・92%で法定雇用率の2%には届かない。雇用が進んでいるのは主に大企業で、中小企業の現実はまだ厳しいとみられる。

大妻女子大の小川浩教授（障害者福祉）は「障害者雇用に対する企業の不安は大きいですが、障害者が個々の能力を生かせる職場はあるはずだ。総社市の取り組みは、地域の実情を知る市町村が積極的に関わることで、そのチャンスが増える可能性があることを示している」と評価する。

## 障害ある子どもら田植えに汗 千葉市のNPOが旭でイベント

東京新聞 2017年5月19日

田植えを楽しむSRC会員や保護者ら＝旭市で  
視覚障害や発達障害などのある子どもたちが健常者と一緒に田植えを楽しむイベントが、旭市の水田であった。参加したのは、東京都と県内で活動するスポーツクラブのNPO法人「シオヤレクリエーションクラブ」(SRC、千葉市)の会員と家族の三十六人。「うまい。すごいね」と声上がる中、約四百四十平方メートルの水田に稲を植えた。(渡辺陽太郎)



SRCの会員約八十人のうち、七割が障害者で、健常者は三割。一緒に陸上競技などを中心にスポーツや田植えなどの行事を楽しんでいる。

旭市で田植えをしたのは今月十四日。水田の深い泥に足をとられ、なかなか前に進めない中、弱視の小学六年生酒井涼君(11)＝東京都豊島区＝は、誰よりも積極的だった。自分の担当範囲を終えると、他の会員を手伝い、「去年も参加したので力が出せた」と笑顔を見せた。

酒井君はメガネをかけても視力は0・1ほど。日常では弱視が気になることもあるという。二年ほど前からSRCに参加。「SRCは他の障害者もいるし、健常者と同じことができる。気兼ねなく体が動かせる大切な場所」と話す。

田植えには、未就学児から中学生までの障害者と健常者が参加。SRCのスタッフ四人が、障害のある会員に手を貸す場面はそれほど多くない。スタッフは、自分自身で田植えをできるように、サポートしていた。SRC理事長の塩家吹雪さん(46)は「障害を理由に挑戦を諦めては駄目。体験して自信をつけてほしい。障害のあるなしにかかわらず、みんなで成功体験を共有することが大切」と強調する。

SRCには現在、二〇二〇年東京パラリンピック出場も狙える一流アスリートも所属する。塩家さんは「全員がアスリートを目指す必要はない。田植えのようなイベントでも、体を動かす楽しさが分かる。その積み重ねの先に、二〇年のパラリンピアンが生まれると思う」と話している。

SRCは随時、会員を募集している。

## 農業で障害者就労で連携 中野市と北陸のスーパーが協定 中日新聞 2017年5月19日 協定書を取り交わす(左から)アルビスの大森社長と阿部知事、池田・中野市長＝県庁で



中野市は十八日、北陸地方で食品スーパーを展開するアルビス(富山県射水市)と「農業と福祉の連携による地域作り協定」を結んだ。アルビスが障害者を雇用してタマネギなどを生産し、自社のスーパーで販売する。

アルビスはこれまでも中野市産のキノコやブドウを販売。食品トレーなどのリサイクル事業では、障害者の雇用にも熱心に取り組んできた。中野市は主要産業の農業で障害者の就労の場を作ろうと相手企業を探しており、農業分野への参入を目指すアルビスとの協力がまとまった。

アルビスの子会社が、雇用契約を結んで障害者が働く「就労継続支援A型事業所」の指定を受け、中野市の施設に拠点を設ける。同市内の遊休農地三・五ヘクタールでタマネギ

とズッキーニを栽培。障害者十人と指導員など五人ほどを雇い、九月から収穫や選別、出荷などを本格的に始める。アルビスの各店で販売し、規格外の野菜も総菜に活用する。

県庁であった締結式では、阿部守一知事の立ち会いのもと、池田茂中野市長と大森実アルビス社長が協定書に署名した。大森社長は「北陸から見ると、信州産の農産物は新鮮でおいしいというイメージ。将来的にはリンゴやモモといった信州の代表的な農産物も手掛けたい」と語った。

県によると、同様の協定は飯山市と愛媛県のスーパーが昨年締結しており、今回は二例目となる。阿部知事は「休耕地が増える一方、障害者の働く場が少ないのが課題。連携の成功例を県内全域に広げたい」と話していた。(今井智文)

### 県庁でやまゆり園再生検討部会 家族側「元の園に戻して」東京新聞 2017年5月19日



「津久井やまゆり園」家族会メンバーや職員も出席した部会＝横浜市中区で

昨年七月に殺傷事件があった県立知的障害者施設「津久井やまゆり園」（相模原市緑区）の再生のあり方を検討する「園再生基本構想策定に関する部会」（部会長・堀江まゆみ白梅学園大教授）は十七日夜、県庁で開かれ、入所者家族らから意見聴取した。家族側は「元の園に戻してほしい」と強調し、小規模施設への変更を念頭に置く部会審議に反発。部会は六月の取りまとめにはこだわらず、丁寧に審議することを確認した。

（原昌志、加藤豊大）

「施設を一刻も早く取り戻し、元通りの生活ができるようにしていただきたい」

やまゆり園家族会の大月和真会長は委員を前に、力を込めながら訴えた。部会のこれまで六回の審議では、やまゆり園のような定員百五十人規模の大規模施設の再建には否定的で、小さなグループホームなど地域生活への移行を前提に再生を進める流れだった。

大月会長は、原状回復から離れていくこうした方向性を「不幸な事件を利用しようとする人がある、としか私には思えません」と批判。横浜市内の仮園舎などに移った入所者約百三十人がまとまって戻ることを求め、事件後の再建と「地域生活移行」は切り離して考えるべきだと訴えた。

また家族会の男性役員は「大規模は悪ではない。集団生活で身に着けられるものがある」と述べ、グループホームに入る場合でも、入所施設の経験が必要だと主張。ほかの男性役員からは「われわれはベストは望んでいない。ベターでいい」との意見もあった。

一方、別の役員の男性からは「もっと社会に出やすいように、小規模施設に移行するべきだ」との発言もあった。

これらを受け、委員側には「丁寧な議論が必要だ」との意見が出て、堀江部会長は施設の機能や規模、実現可能性について、協議に時間がかかるとの見通しを示した。六月に予定する部会報告書の取りまとめについて「当初よりも期間をいただいて議論をしたい」と述べ、延期も視野に入れることを確認した。

部会審議について黒岩祐治知事は十八日、本紙などの取材に「今は部会の結論を待っている段階だが、（家族会側の）声を今まで聞かれていなかったのかと、ちょっと意外な感じだ。ただいろんな意見を聞いてくださっている。静かに見守っていきたい」と話した。県は部会から報告書を受け、「夏ごろ」の基本構想策定を予定している。

足立区障がい福祉センターは18日、発達障害児を持つ保護者ら計37人分のメールアドレスが誤って流出したと発表した。現時点で情報流出によるトラブルは報告されていないという。

同センターによると、個人情報の流出トラブルが起きたのは、保護者らの相談に応じる「ペアレントメンター事業」を区から受託している事業者。今月16日、受託事業者の女性職員が、相談日程が書かれたメールを保護者ら計37人に送る際、他の人のメールアドレスが表示されない「BCC」欄ではなく、誤って「CC」欄に入力して一斉送信。その結果、受信者は互いのメールアドレスを見られる状況でメールを受け取った。

同センターは「(事業者に)個人情報の取り扱いを徹底し、再発防止に努めるよう求めた」などと話している。

### 若年層の死因、自殺が1位 「深刻な状況」と対策白書 共同通信 2017年5月19日

厚生労働省がまとめた2017年版自殺対策白書の概要が18日、判明した。5歳ごとに区切った年齢階級別でみると、15歳から39歳までの5階級で、死因の1位が「自殺」だった。白書は「若い世代の自殺は深刻な状況にある」とし、若年層の自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）を低下させることを重要な課題として挙げている。白書は今月下旬にも閣議決定される予定。

政府は、今夏に新たな自殺総合対策大綱を閣議決定する。厚労省の有識者検討会は、若年層の自殺対策として、インターネットを活用した情報発信や相談体制の整備、充実などを大綱に盛り込むよう提言している。

### 電子図書 昔話、音声付きで 砥部の高校生ら、障害児読書支援に制作 県立図書館が協力 / 愛媛 毎日新聞 2017年5月18日



障害児向けに制作された電子図書の昔話「道後温泉の鷺石と玉の石」の原画展＝松山市堀之内の県立図書館で、花澤葵撮影

障害があって活字を読むことが難しい子どもたちに日本の昔話を楽しんでもらおうと、県立図書館と松山南高校砥部分校デザイン科を今春卒業した生徒9人が、道後温泉に伝わる石にまつわる昔話の電子図書を制作した。同館では7月27日まで原画展が開かれている。【花澤葵】

公益財団法人「伊藤忠記念財団」（東京都）が、障害のある子どもたちを対象に2010年から始めた読書支援事業の一環。

財団が全国の図書館などに協力を呼びかけ、絵と文、音を組み合わせた電子図書が制作されている

## 大石順教尼の書画など50点 和歌山・九度山の旧萱野家で企画展

産経新聞 2017年5月19日

事件で両腕を失い、口に筆をくわえて書画を制作した大石順教尼（1888～1968年）の企画展が九度山町の町指定文化財「旧萱野（かやの）家」で開かれ、書画など約50点が紹介されている。21日まで。

町教委の主催。順教尼は大阪・道頓堀の出身で、本名よね。17歳のとき、事件で両腕を切り落とされたという。カナリアがくちばしでヒナに餌を与える姿を見て、口に筆を加えて練習を重ね、和歌や絵画も修業した。親交のあった萱野正之助・タツ夫妻の支援を受け、高野山真言宗の総本山金剛峯寺で得度し、身体障害者の社会復帰事業の発展にも貢献した。

企画展では書画などの常設展示のほか、図柄を描いた振り袖や帯、美人画などを展示。訪れた人は興味深そうに見学している。

無料。午前10時～午後4時半。問い合わせは旧萱野家（電）0736・54・2411。

## 身体に障がいのある人のための俳優講座4 俳優募集【6月6日（火）までに申し込む】

西日本新聞 2017年05月18日

「すごい演劇アートプロジェクト」は、2018年の新作に向けて俳優講座を開講、参加者を募集している。対象は、演劇経験を問わず身体に障害のある人と、演劇経験のある障害のない人。6月16日（金）～7月16日（日）の間に四つのクラスを開講する（各3日間）。参加費千円（3日間通し料金、保険料含む）。申込用紙に記入し、郵送、ファクス、メールのいずれかで6月6日（火）までに申し込む（応募多数の場合は抽選）。クラスの詳細などはホームページで。ニコちゃんの会＝092（863）5903。



## 魔法の車椅子 歩けた 緊張緩め、表情も豊かに 大阪の療法士がオーダーメイド

毎日新聞 2017年5月18日

一人一人の特徴に合わせた車椅子を製作している野村寿子さん＝大阪府箕面市で2017年4月、三村政司撮影

大阪府吹田市の作業療法士、野村寿子さん（54）がつくる車椅子が評判を呼んでいる。身体障害者の体を支える「座位保持装置」を一人一人の特徴に合わせてオーダーメイドすることで、姿勢が安定し、体の緊張がほぐれるという。利用し始めてから、大幅に身体能力が向上した少女の母親は「娘にとっては魔法の車椅子です」と喜びを語る。

## 池脇千鶴、14年ぶり民放連ドラ

朝日新聞 2017年5月19日

女優の池脇千鶴が7月スタートの長瀬智也主演TBS系連続ドラマ『ごめん、愛してる』（毎週日曜 後9:00）で、2003年放送の『大奥』（フジ）以来14年ぶりの民放連ドラにレギュラー出演を果たすことがわかった。池脇は母から捨てられ愛を知らずに育った主人公・岡崎律（長瀬）と同じ児童養護施設出身の河合若菜を演じる。若菜は8歳の息子を持ちながら、子どもの頃に事故に遭い高次脳機能障害となっていて、7歳程度の知能しか持たないという難役で、池脇は主演の長瀬とは初共演となる。

同作は、2004年に韓国KBSテレビで制作され、『冬のソナタ』を超える大ヒットを飛ばした恋愛ドラマを、現在の日本に舞台を移し、リメイク。これまで誰にも愛されなかった悲運を呪い、愛を求める律と、彼に惹かれていく純粋で愛情深い凜華（吉岡里帆）、母の愛を一身に受け屈託なく生きるアイドルピアニストのサトル（坂口健太郎）、そして自分が産んだ律がそばにいることに気づかず息子のサトルを溺愛する麗子（大竹しのぶ）、母息子と男女の二つの三角関係が織りなすラブストーリー。

高次脳機能障害とは、事故や病気などが原因で脳が損傷し、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの症状により日常生活や社会生活に影響が出ることがある。一見、健常者と同じに見えるが、複数の障害を併せ持ち、症状も多岐にわたるため、周囲からなかなか理解されにくい…という障害で、実際にオファーされた池脇は「悩みました」と戸惑う気持ちもあったことを告白。

「悩みましたけど、プロデューサーに説得されました（笑）。『ぜひ！』と熱心に言っていて『じゃあ、一緒に頑張ってみようかな』と私も思って。背中を押されたので決めた、という感じです」と若菜役に臨むことを決意。実際に3人の高次脳機能障害を抱える人のもとへ赴いて、取材を重ねるなど「いろいろなエッセンスを使って自分なりに若菜像を作り上げることができたので、とても助かっています」と役作りには余念がない。

撮影は、ずっと会いたかった幼なじみの律と25年ぶりに再会し、若菜が子どものように大喜びするシーンからスタート。池脇は「律と接してみて、若菜としては懐かしいし、うれしい記憶がぱあっと花咲いたような感じでした」とはやくも感情移入している様子。久々の民放連ドラとなるが「新鮮な気持ちで楽しもうという気持ちでやっています。ドラマを観る方は、主人公や恋愛する4人の男女に思いを入れることができると思うけれど、私の役柄は理解しにくい部分もあるかもしれません。広い心で観て、ドラマ全部をまるごとただ楽しんでいただければ」と呼びかけている。

また、サトルが夢中になる個性的な天才サクソ奏者・古沢塔子役には、NHK朝の連続テレビ小説『花子とアン』や『べっぴんさん』、放送中の『フランケンシュタインの恋』（日テレ）に出演している若手女優・大西礼芳、律の出生の秘密を知るゴシップ記者・加賀美修平に六角精児、麗子のマネージャーで凜華の父・三田恒夫に中村梅雀が起用された。大西は塔子同様、13歳から7年間吹奏楽などでサクソを吹いていた経験を持ち、特技を生かしたキャラクターで存在感を見せることが期待される。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんペクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行